

自生しているものを採っていただく。ご近所さんからのお裾分けをありがた
くいただく。ご近所の顔の見える農家さんから購入する。頑張っている地域の
農家さんから購入する。それだけで素人の野菜づくりが登場する隙がなくなっ
てしまう。ただ、そのうえで台所からつつかけで外に出てちよつと彩りや香り
になるものを摘んできて使う贅沢はしてみたい。

家を建てた翌年、雨が降るたびに家の周りにできる水たまりに耐えられず、
Mさんをお願いして、暗渠排水と砂利を入れてもらうことにしたのだが、その
時にMさんから「畑くらいやらないかい。」と言われて、ついでに小さな畑が
できるようにそこにも暗渠排水と礫、それに黒土を入れてもらった。「もつと
広くなくていいの?」と言われてたが、妻が謙虚に「それだけでもできるかどう
かわからないので。」と本当にこじんまりした畑をつくってもらった。

それも、妻の構想としてはワイルドな原野に整然と畝がならぶ畑は似合わない
ということ、できるだけ境界もあいまいに、野菜だけでなく好きな野草も
パッチワークのように畑に共存するのを目指すことになった。振り返ってみる
とこの考え方は正しくて、良く風景に馴染んだ畑になっている。最初に植えた
のはハーブ類とトマト、それにラディッシュだったか。いずれも身近にちよつ
とあると重宝するものだ。ハーブはミント、レモンバーム、オレガノ、タイム、
チャイブ、シャンツアイ、シソなどである。残念ながらローズマリーはこちら
では路地で越冬できないので鉢植えにして畑に置いてある。ハーブは当然料理
にちよつとあると嬉しいものだが、花をつける姿も綺麗で舌だけでなく目も楽し
ませてくれる。トマトは栽培しやすいこともあるし、いくらあっても煮て冷凍
しておけば冬にも使える。この畑はもつぱら妻の領域であるが、ちよつと脇に
カシスやブルーベリーの木を植えさせてもらった。まだ、苗に毛の生えた程度
であるが、少しだけ朝のヨーグルトにのせると彩りも綺麗だし、朝から野の気
をいただけるのが嬉しい。

数年経つと妻もは畑づくりに慣れてきてもう少し大きくしたいといふので
Mさんから礫と黒土をもらって少し拡張した。つくる種類も少しだけ増えて
豆、きゅうり、ナスが加わった。といつてもそれぞれ一、二株なのでしれている。
肥料はもつぱら生ゴミの段ボールコンポストでつくった堆肥と大量の落ち葉の
腐葉土なので良い循環になっている。そういえば、町内のゴミステーションに
生ゴミが出ているのを見たことがない。そんなもつたいたいことをするわけが
ないということか。我が家の段ボールコンポストは都心のマンションにいると
きからやっていたのだが、その時は少し気になった匂いもこちらにきて野の匂
いに慣れると、とても良い土の香りだったということに気が付いた。

昨年のお畑にはかぼちゃも登場したが、それはコンポストに入れたかぼちゃの
タネから勝手にでてきたのだという。ご近所からお裾分けいただいた立派なか
ぼちゃの子供なので成長を期待して見守っていたら、一丁前のかぼちゃが二個
実った。コンポストはそんな粋な循環もしてくれる。

